

## 論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (学術)	氏名	ISLAM MD. AMINUL
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 Agricultural Production According to Land Tenure Arrangements in Bangladesh: A Case Study of Basail Upazila			
論文審査担当者 主 査 広島大学大学院国際協力研究科 教授 印 MAHARJAN, KESHAV LALL 審査委員 広島大学大学院国際協力研究科 教授 金子 慎治 審査委員 広島大学大学院国際協力研究科 准教授 関 恒樹 審査委員 広島大学大学院国際協力研究科 准教授 川村 健介 審査委員 放送大学教養学部 教授 河合 明宣			
〔論文審査の要旨〕 バングラデシュ農業の発展において、土地保有制度による農地賃貸形態に着眼し、小作人の厚生 の向上を主眼に小作権の確立、耕作面積の上限、地主－小作人の間における生産費の平等的負担等 の改定を目的とし制定された「土地改革法 1984」が農業生産性、農業純収益に与える影響等の問題 に着目し、設定されている研究課題は適切である。そして、バングラデシュにおいて小作人の比率 が比較的高いタンガイル県のバサイル地区における現地実態調査による一次資料に基づく農業経済 学の視野に立った実証分析は評価できる。  本論文は7章から構成され、以下のようになっている。 序 章：研究の背景、課題と制約 第2章：先行研究のレビュー 第3章：研究分析のフレームワーク、方法論及び調査地の位置づけ 第4章：研究対象地の社会経済状況および農業の現状とその変容 第5章：農地賃貸形態と農業生産の現状分析 第6章：農地経営と技術的効率性に関する分析-確率的フロンティア分析を中心に 終 章：結論  小作による非効率性の定説に立脚し、安定的小作と比較的不安定な小作形態において農業生産性の 差があるという先行研究の成果を踏まえ、事例地におけるサンプル農家の農業経済分析が行われて いることが評価された。その際、農家を自作農、自耕作小作農、小作農および農地を自作地、抵当 地、刈り分け小作地に区分し、それぞれにおける作物生産の量、生産費用及び農家の社会経済状況 に関する一次資料を活用し、1) 主要な作物の生産性、農業純収益及び費用便益分析を行ったこと、 2) 確率的フロンティア分析の手法を通じて技術的効率性を確認し、それは自作農、自耕作小作農、 小作農ごとの有意義的差異を検定した上、地代が技術的効率性における一つの重要な要因にっ ていることを明示したこと、3) 「土地改革法 1984」の実効的運用、中でも地主と小作人の間に生産費の 平等的負担が地代・生産性に影響を及ぼし、それが小作人の安定的経営に結びつき、農業全体の発 展に貢献しうることに言及したこと、4) さらに、小作地を担保に制度金融を活用できることが農業 生産性の向上化につながることを二個ロジットモデル分析によって明らかにしたこと、5) 研究成果 の一部は内外で査読付学術論文(2本)、また一部は国際学会で口頭発表されていること、6) これま での研究を踏まえ、同問題の理解を深めるため、独自の研究説が展開されていること等は評価され る点として注目された。 以上の結果、審査委員一同が本論文が博士(学術)に充分値すると判断し合格と判定した。			